



流れをつかむ

校長 西尾 武泰

師走となり校庭の木々を揺らす風の冷たさに、本格的な冬の訪れを感じるころとなりました。休み時間には校庭で寒さにも負けず元気に遊ぶ子どもたちの様子が見られます。子どもたちの元気な姿が微笑ましく、ほっとする瞬間で、こちらも元気をもらっています。

現在、4年に1度のサッカーのワールドカップがカタールで開催されています。日本は一次リーグで強豪国のドイツを相手に歴史的勝利をあげました。コスタリカには残念ながら負けてしまいましたが、良い流れをつかんで目標としているベスト8に入れるように応援していきたいです。

さて、上記にもあるようにサッカーなどのスポーツをテレビなどで見ていると、よく「流れに乗っています。」や「流れが良いです。」と解説者が発言していることがあります。この場合の「流れ」とはもちろん液体や気体に移り動くことではありませんし、人から人へ、組織から組織へと物に移り動くようなことではありません。試合における「流れ」とは目に見えない感覚的なものではありませんが、試合を見ているこちらにも「確かに良い流れがきているな。」と感ずることが多くあります。この状態を「好循環」と言い換えるともっとわかりやすいのかもしれませんが。

私自身も子どもの頃からソフトボールやバレーボール、サッカーなどのチームスポーツをしてきました。でするので、いろいろなスポーツにおいても、この「流れ」があることがよくわかります。一つのプレーをきっかけにして「流れ」がこちらに傾き、逆転勝ちをしたこともありますし、また、気を抜いたプレーをしたことにより「流れ」が悪くなり、勝てそうな試合を落としてしまったことも何度もあります。この「流れ」は見えないからこそやっかいであり、特に経験の少ない子どもたちに理解させることは難しいと思います。

スポーツをしている時だけでなく、学校でもこのような「流れ」を感じることもよくあります。現在の「流れ」を感じ取り、その「流れ」が良い方向に傾くようにしていきたいです。具体的には、まずは小さなミスをしないうちに基礎基本をしっかりと押さえ丁寧に対応していく。そして、「良い流れ」がきた時には、全体を飛躍させながらも、先回りしたリスクマネジメントをしっかりと行い好循環を持続させていくと、そのようなことを心がけていきます。

来年は駒林小学校、創立50周年記念行事があります。「より良い流れ」をつかむためにはまずは今月の師走できちんとまとめをし、来年へと「良い流れ」を進みたいです。そして、来年は50周年記念行事などを通して駒林小学校にかかわる全ての人たちの思い出に残る一年にしていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様方のご協力とご支援をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

